三春から始まる、時代を超えた再会の物語。

三春町の象徴である「滝桜」。千年の時を刻むその樹は、かつてこの地を生きた人々の想いや祈りを記録し続けてきた、膨大な「記憶の器」でもあります。

技術がどれほど本物そっくりに再現しても、そこに「心」はあるのか。AIとして蘇った愛姫（めごひめ）が、千年の滝桜に触れたとき、物語は動き出します。

「心」とは、計算された正解ではなく、ふとした迷いや、誰かを想って揺れ動く感情の中に宿るもの。もし、プログラムされた「AIの愛姫」が、滝桜に刻まれた「戦国を生きた本物の愛姫」の心とシンクロし始めたら……。 冷たいデータに温かな「灯（ともしび）」が灯る瞬間、私たちは大切な誰かと、本当の意味で再会できるのかもしれません。

スマホ一つで何でも生み出せる、効率が優先される時代だからこそ触れたい、理屈では割り切れない人の温もり。滝桜の蕾がほころぶように、あなたの心に優しい記憶が残りますように。AIと戦国の記憶が織りなす、新しい愛姫の物語を、ぜひご覧ください。

この瀧の桜と共に
三春の人々がどうか皆が幸せに
暮らしていけるように…

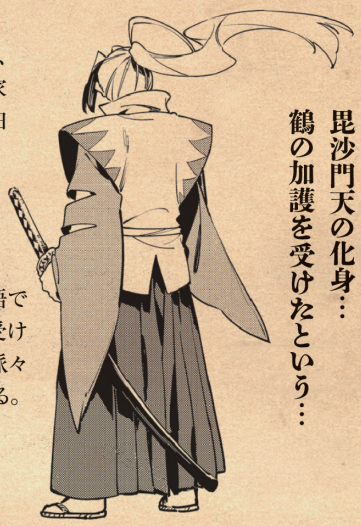
愛姫（めごひめ）

本作のヒロイン。三春城主・田村清顕の一人娘。三春の民に慈しまれて育つが、戦国という荒波に揉まれ、数え歳わずか12歳で伊達政宗のもとへ嫁ぐ。可憐な容姿の内に、田村家一族の誇りと、愛する者を守り抜く強い意志を秘めている。

僕いやだよ！
お姉ちゃんと離れるの！

田村 顕季（たむら あきすえ）

田村氏顕の嫡男。愛姫を実の姉のように慕い、幼い頃から共に過ごしてきた。愛姫の伊達家嫁入りを寂しく思いつつも、田村宗顕として田村家を支える青年に成長していく。



毘沙門天の化身…
鶴の加護を受けたという…

坂上田村麻呂（さかのうえたむらまろ）

田村氏の祖とされる伝説の征夷大将軍。物語では田村家一族の精神的支柱であり、愛姫が受け継ぐべき「武家の誇り」の象徴。三春の地に脈々として流れる気高き血脈の起源として描かれる。

せめて、今だけ…
桜の季節だけでも、
この子にとって良きときで

愛… お主が三春の
未来を照らす
光となるのだ…

田村 清顕（たむら きよあき）

三春城主であり、愛姫の最愛の父。坂上田村麻呂の子孫を称し、周囲を強国に囲まれながらも、智略を尽くして三春の地を守り抜く。愛姫を誰よりも深く愛している。

恐れられる顔をしていても、
ほんとは誰かを守るために
怒ってるんだと。…その時、決めた。
俺もそうなるのだ、と

田村 氏顕（たむら うじあき）

田村家の一族であり、三春城主・田村清顕の弟。愛姫を幼少期から見守りながら、一族の行く末を常に案じる。愛姫の身を案じつつも、田村家存続のために彼女を伊達家へと送り出す。

伊達 政宗（だて まさむね）

奥州の覇権を狙う伊達家の若き嫡男。「独眼竜」の異名を持ち、鋭い才知と野心に溢れるが、家内の対立や孤独に苦悩する一面も。愛姫との出会いを通じ、互いに衝突しながらも、やがて唯一無二の信頼関係を築いていく。

この筆のように
迷いなく
姫様の信じる道を
一歩ずつ進んでいくのです

雪村（せっそん）

三春にゆかりのある伝説的な画僧。（※雪村周継。実在の天才絵師）物語の中では、愛姫の幼少期に絵を通じて「世界の広さ」や「物事の本質」を教え、彼女の心の支えとなる師のような存在。

確かに田村は小勢。だが弱くない
大軍相手によく戦い
負けたことがない

伊達 輝宗（だて てるむね）

政宗の父。伊達家第16代当主。広い器量を持つ名君で、田村家との同盟のため愛姫を迎え入れる。政宗と愛姫の行く末を温かく見守り、次世代へ奥州の未来を託す。

バグじゃない…この胸のノイズは、
愛姫が三春を想って流した
本物の涙…

愛姫 MEGOHIME

戦国時代を生きた愛姫を模した学習型AI。樹齢千年を超える滝桜に眠る「オリジナル愛姫」の想いに導かれ、戦国時代を気高く生きた自身のルーツである愛姫の歴史を垣間見ることとなる。

愛姫特設サイトはこちら ➡